

21世紀COE「京都大学化学連携研究教育拠点」外国人講演会報告書

合成・生物化学専攻 吉田潤一

研究集会名： 21世紀COE講演会

講師： Dr. Armin R. Ofial (Department Chemie und Biochemie,
Ludwig-Maximilians-Universitaet Muenchen, Germany)

演題： Development and Applications of Reactivity Scales for Electrophiles and Nucleophiles

日時：平成17年12月1日（木）16:30-18:00

場所：（A2-304号室）

総参加者概数：約40名（教員約10名、研究員・大学院生・学部生約30名）

主な参加者：吉田潤一、松原誠二郎、菅 誠治

講演内容：

Ofial博士は有機カチオンの構造と反応性に関する多くの優れた研究をおこなっている。本講演では、求電子剤と求核剤との反応に広く適用可能なReactivity Scalesという定量的な指標について講演をおこなっていただいた。膨大な量の速度論実験に基づいて決定したこの統一的指標を、ヘテロ環化合物のアリル化反応や重合反応などの反応設計に利用する方法についてご紹介をいただいた。

講演会の様子：

